

日本語指導が必要な児童生徒の支援（名古屋市）

本市の現状：日本語指導が必要な児童生徒 **3395人**（R7.5.1現在） **10年間で1.7倍増加**

<現在の主な支援体制>

学校への人的配置：日本語教育適応学級担当教員164（R6より8人増）日本語指導講師34人（R6より増減なし）

日本語教育相談センター

コーディネーター6人

- ・日本語指導体制の運営窓口
- ・初期の教室や通級指導教室の入級手続き
- ・母語学習協力員の巡回指導の計画

コンサルタント13人

フィリピン語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、ハンガリー語・ネパール語・ベトナム語の通訳・翻訳

初期日本語集中教室

【対面型個別指導教室 2教室 北区・港区】

各教室に企画指導員1人 指導員1人 アシスタント6～8人

定員：各教室8～10人程度 指導期間：約3か月
授業：月～金の午前中 ※午後は在籍校で生活

【対面型グループ指導教室 1教室 中区】※民間事業委託

管理責任者1人 指導員1人

定員：10人程度 指導期間：約3か月 授業：月～金の午前・午後

【遠隔型指導教室 2教室】 送迎が困難な児童と遠距離の生徒を支援

指導員2人（2教室で運営）

1人の指導員がグループ指導（5人）午前中2グループ授業実施
指導期間：約4か月 1人の指導員が前期・後期の2ターム実施

対象を小学生だけでなく中学生にも拡大、年間25人受入

遠隔指導アシスタントを派遣し、学校の教員を支援

母語学習協力員

R6(51人)→R7(54人) 拡充

- ・フィリピン語（12人）・ウルドゥー語（2人）
- ・ポルトガル語（9人）・タミル語（1人）
- ・中国語（24人）
- ・ネパール語（3人）
- ・ベトナム語（3人）

スーパーバイザー3人
集住地域に配置
母語学習協力員の指導

【巡回指導】

母語学習協力員を希望校へ派遣
6月～3月（毎週水曜日）

散在化への対応（年間1946回）
各学校で日本語指導担当教員と連携

日本語通級指導教室（16教室）
にも派遣→学習言語の習得支援

<今後の課題>

多言語化への対応

ネパール語、ベトナム語、ウルドゥー語、タミル語などの児童生徒が特に増加
母語学習協力員・コンサルタントの拡充

初期日本語集中教室の受入体制強化

民間事業委託による初期日本語集中教室を拡充したもの、依然として入級待機期間が生じている現状
➡ 対面型指導教室の運営体制を検討

民間事業者や地域の日本語教室との連携

民間業務委託を利用した効果的な指導を導入
地域の教室や人材とも連携・協力体制を構築